

山手貨物触車死亡事故から20年。

命を絶対的価値基軸に、安全第一の職場をつくり出すために奮闘することを確認！

～工務部会主催の安全集会に参加しました！～



「安全への挑戦を誓う碑」献花

2019年2月21日、工務部会主催の安全集会に参加しました。1999年2月21日に発生した山手貨物触車死亡事故から20年を迎え、命を絶対的価値基軸に安全第一の職場をつくり出すために奮闘することや、次代を担う若い仲間たちにそのたたかいを継承していくことを全参加者と確認しました。

集会では、パネルディスカッションを行い「山手貨物触車死亡事故を教訓とした安全風土再確立のたたかい」「工務職場の未来」についてテーマ毎に議論してきました。事故が発生して以降の職場議論では「作業効率が落ちる。工事が終わらない。」等の声と向き合い、命を守るために系統を越えて議論し確立した「原則線路閉鎖」をはじめ、現在実施されている「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化」や地方交渉が行われている「電気部門の変革 2022」等、施策にもしっかりと向き合い「安全・健康・ゆとり・働きがい」を担保できる職場をつくり出していくことを確認してきました。また、参加者から「最近発生した事故について原因究明委員会を通じて組合員と向き合ってきた」「施策議論を通じて組織強化・拡大をしてきた」実践も語られ、職場でのたたかいが重要であり教訓であることを共有化しました。

【山手貨物触車死亡事故】

1999年2月21日0時14分、山手貨物線（大崎～恵比寿間）で協力会社社員5名が触車死亡した事故。JR東労組は、この事故の重大性を受け止め事故の連鎖や作業の安全を確保するため「すべての列車間合作業を原則中止」した上で、触車事故防止について労使議論と職場の組合員との厳しい議論を積み重ねてきた。その結果、「原則線路閉鎖」や「見張員の注意力だけに依存しない」等、現在の触車事故防止の手引きを制定してきた。

安全なくして労働なし！
安全再確立に向けて職場から
議論をつくり出そう！